

森林吸収 WG の設置について

1. 森林吸収WG設置の背景・目的

環境省では、本年3月より「カーボン・オフセットに用いられる VER (Verified Emission Reduction) の認証基準に関する検討会」(以下、「VER 検討会」という)において、カーボン・オフセットに用いられる VER のあり方及びその検証・認証方法、VER の信頼性を確保するための仕組み等について検討を進めてきたところである。

現在、国内では、間伐等の森林管理による森林の二酸化炭素の吸収量増加を認証する森林吸収 VER への関心が高まっており、地方自治体において森林管理による CO₂ 吸収量評価・認証制度の取組が進んでいる。長野県が 2008 年7月に全都道府県を対象に実施した調査によれば、すでに6都道府県で CO₂ 吸収量の評価・認証制度を実施しており、8都道府県で検討している段階にある。

今後、このような森林吸収 VER を用いたカーボン・オフセットの取組が広まることにより、資金環流によって国内林業・林産業が活性化するだけでなく、木質バイオマスのエネルギー利用等の新たな産業が創出されることにより、地域経済全体が活性化されると考えられる。このため、森林吸収 VER は政治的にも注目されており、先日発表された環境副大臣吉野正芳イニシアティブにも、森林吸収 VER を活用したカーボン・オフセットの推進とともに森林吸収 VER 認証基準の早急な(年内)策定について盛り込まれたところである。

そこで、環境省では、森林吸収 VER を用いたカーボン・オフセットの取組を一層促進することを目的とし、VER 検討会の下に森林や植林 CDM 等の専門家によって構成される森林吸収 WG を設置し、国内市場流通型の森林吸収 VER の方法論や認証・発行スキームについて検討することとする。

2. 主な検討事項

- 既存の森林吸収 VER (地方自治体の森林 CO₂ 吸収量評価・認証制度、国外の森林 VER 認証制度) 事例のレビュー
- 国内森林管理プロジェクトの追加性(適格性)、現地調査(モニタリング)方法、森林 CO₂ 吸収量算定に関する方法論の検討
- 森林吸収 VER の認証・発行スキームの検討(検証体制を含む)
(※ 植生回復による CO₂ 吸収や伐採木材による炭素貯留については当面取り扱わないこととする)

3. 森林吸収WG委員構成

- 裏面のとおり

4. 検討スケジュール(予定)

- 2008 年 10 月末以降、3～4 回程度開催(非公開)。
- 第 7 回 VER 検討会(1 月開催予定)において検討結果を報告予定。

カーボン・オフセットに用いられる
VER (Verified Emission Reduction) の
認証基準に関する検討会の下に設置する
森林吸収ワーキンググループ

検 討 委 員 名 簿

(敬称略、五十音順)

- 天野 正博 早稲田大学大学院 人間科学研究科 教授
- 岡 成一 株式会社 JACO CDM 審査部
- 小林 紀之 日本大学大学院 法務研究科 教授
- 速水 亨 速水林業 代表
- 日比 保史 インターナショナル・コンサベーション・ジャパン 代表
- 松本 光朗 森林総合研究所 温暖化対応推進拠点温暖化対応推進室長

オ ブ ザ ー バ ー

林 野 庁

環境省地球環境局研究調査室